

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01020

研究課題名(和文) 明清期徽州魚鱗図冊の研究

研究課題名(英文) A Study on Yulintuce of Huizhou in Ming and Qing Periods

研究代表者

伊藤 正彦 (Itoh, Masahiko)

熊本大学・大学院人文社会科学研究部(文)・教授

研究者番号：50253711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、明清期徽州の魚鱗図冊の記載様式、明代の里＝図の地理的空間、魚鱗図冊による事産把握の変化を探ることによって、魚鱗図冊の新たな性格理解をめざしたものである。だが、2019年末以来、COVID-19の感染拡大によって中国での資料閲覧・現地調査ができない状況がつづいたため、目標に達し得なかった。とはいえ、同一地点における明初洪武丈量の魚鱗図冊と万暦9年丈量の魚鱗図冊の記載データを分析し、現地調査を行えば明代の里＝図の地理的空間、魚鱗図冊による事産把握の変化を明らかにできる条件を整えた。また、近年取り組んできた休寧県27都5図の農村社会研究の成果を学術書として出版する準備を整えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

同一地点における明初洪武丈量の魚鱗図冊と万暦9年丈量の魚鱗図冊の記載データをもとに明代の里＝図の地理的空間を把握することは、まったく初めての試みであり、その準備を整えた意義は大きい。また、私が近年取り組んできた休寧県27都5図の農村社会研究は、明代の賦役黄冊・魚鱗図冊文書の記載を活用した初めての試みであり、その成果を学術書として出版する準備を整えたことの意義も大きい。活用した賦役黄冊・魚鱗図冊文書のなかには閲覧困難な稀見のものが含まれており、それを資料篇に収めて公開する予定であり、これによって世界の中国史・中国经济史研究に大きく貢献するはずである。

研究成果の概要(英文)：Since the end of 2019, the spread of COVID-19 has prevented access to materials and fieldwork in China, thereby hindering the attainment of the goal of this research. Despite this, however, by analyzing the descriptive data of The Market Register of the Land Survey in the early Ming Hongwu era and that in the 9th year of the Wanli era (1581) at the same location, conditions have been set to elucidate the geographical spaces of the li-tu during the Ming period and the changes of land ownership and management in The Market Register of the Land Survey upon conducting fieldwork. Furthermore, preparations have been made to publish the results of my recent research on the rural society of 27 Du 5 Tu in Xinning Prefecture as an academic book.

研究分野：明清社会経済史

キーワード：魚鱗図冊 記載様式 里＝図 地理的空間 事産把握 賦役黄冊 現地調査

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

私は、2013～2017年度科学研究費補助金基盤研究(C)「明末清初期、里甲制体制下の社会的流動性と階層構成の変動に関する研究」(課題番号25370834)において、明・万暦9年(1581)の丈量(張居正の丈量)で作製された休寧県の魚鱗図冊を閲覧・分析し、魚鱗図冊の記載内容、記載様式の差異などを認識するとともに、中国の研究機関における魚鱗図冊の所蔵状況を把握し、現地調査を経験することができた。こうした認識と経験が本研究の大きな前提である。

### 2. 研究の目的

(1) 休寧県は明末張居正の丈量で作製された魚鱗図冊が最も多く残存しており、そのなかには活字版のものがあり、同一県内の魚鱗図冊でも記載様式は多様である。休寧県の万暦9年の丈量で作製された魚鱗図冊を可能な限り網羅して対照し、張居正文量の休寧県の魚鱗図冊にはどのような記載様式があったのかを具体的に明らかにする。

(2) 魚鱗図冊は各所有事産の土名(所有事産の所在地)を記載しており、現地で土名の聞き取りを行なって地図上でその位置を確認すれば、魚鱗図冊の作製単位である里=図の地理的空間を具体的に把握することができる。明末張居正の丈量で作製された魚鱗図冊が記載する土名の聞き取り調査をもとに、明代の里の地理的空間を具体的に明らかにする。

(3) 魚鱗図冊の一つの地番で把握される事産の内容はどのような要因によって変化していくのか。同一の里に関する異なる時期の丈量によって作製された魚鱗図冊の記載を比較分析すれば、その要因を探ることができる。同一の里で異なる時期の魚鱗図冊の記載を比較分析して検討する。

以上3つの作業をふまえて、国家が税役を賦課するために作製した土地台帳という魚鱗図冊の通説的理解とは異なる魚鱗図冊の性格理解を試みる。

### 3. 研究の方法

目的の(1)については、万暦9年の丈量で作製された休寧県の魚鱗図冊を所蔵する機関で閲覧・調査するとともに、連携研究者からの情報をもとに、万暦9年の丈量で作製された休寧県の魚鱗図冊の記載様式の多様性を明らかにする。

目的の(2)については、地形図が存在している歙県16都2図で作製された万暦9年丈量の魚鱗図冊である中国歴史博物館蔵『万暦9年歙県16都2図商字魚鱗清冊』が記載する土名の聞き取りを行なって地形図上でその位置を確認し、歙県16都2図の地理的空間を明らかにする。

目的の(3)については、洪武丈量で作製された歙県16都3保の魚鱗図冊である中国社会科学院歴史研究所蔵『明洪武18年歙県16都3保万字清冊分庄』と万暦9年丈量で作製された歙県16都2図の魚鱗図冊である中国歴史博物館蔵『万暦9年歙県16都2図商字魚鱗清冊』の記載内容を比較分析し、事産把握のあり方が変化する要因を検討する。

### 4. 研究成果

本研究は、「研究の目的」で記したように、(1)万暦9年丈量で作製された休寧県の魚鱗図冊の記載様式、(2)明代の里=図の地理的空間、(3)魚鱗図冊による事産把握の変化のあり方を明らかにすることをふまえて、魚鱗図冊の新たな性格理解をめざしたものである。しかし、研究を開始した2019年の年末以来、COVID-19の感染拡大によって中国に渡航して資料閲覧や現地調査をすることができない状況が続いたため、(1)～(3)のいずれの課題についても目標に達することはできなかった。

資料閲覧・現地調査ができない状況にあっても、(2)・(3)の課題に迫るために最大限の努力をした。

(2)については、鶴見尚弘氏(横浜国立大学名誉教授)による中国歴史博物館蔵『万暦9年歙県16都2図商字魚鱗清冊』の抄本をご提供いただき、それが記載するデータを入力し、土名の聞き取りができるようになれば、歙県16都2図という明代の里=図の地理的空間を把握することができる条件を整えた。

(3)については、阿風氏(清華大学)から中国社会科学院歴史研究所蔵『明洪武18年歙県16都3保万字清冊分庄』の画像を提供していただき、その記載データを入力し、中国歴史博物館蔵『万暦9年歙県16都2図商字魚鱗清冊』の記載内容を比較・分析して事産把握のあり方が変化する要因を検討する条件を整えた。

これらは、中国での現地調査が可能になれば、所期の目標に達することができるようにしたものである。

中国に渡航して資料閲覧・現地調査ができない状況にあったため、代わりに明代の里甲制、宋代以降の鄉村行政組織の理解にかかわる新たな文書資料の分析に着手した。

その一つは、新たな元代江南の戸籍資料を収める王曉欣・鄭玉東・魏亦樂編『元代湖州路戸籍文書 元公文紙印本《增修互注礼部韻略》紙背公文資料』(中華書局、2021年)の記載

データを入力するとともに、資料が記載する現地の地形図を入手して現地調査する準備を整えた。もう一つは、明初「小黄冊図の法」に関する新たな文書資料（上海図書館蔵公印本『後漢書』と上海図書館・四川省図書館蔵公文紙印本『魏書』の紙背文書）に関する研究成果を整理するとともに、日本国内の静嘉堂文庫蔵『漢書』残巻の紙背文書を閲覧・撮影して明初「小黄冊図の法」の実態と性格を考察する条件を整えた。

さらに、本研究の研究協力者である黄忠金氏（暨南大学）を令和3年度日本学術振興会「外国人研究者招へい（短期）」で招へいし、本研究の（1）の課題について情報交換するとともに、（2）・（3）の課題を共同で検討し、明初「小黄冊図の法」に関する新たな文書資料についても、意見交換を行なった（来日できない状況がつづいたため、2022年6月～7月に招へいした）。

これと並行して、これまで私が取り組んできた休寧県27都5図の農村社会研究をまとめて学術書として出版する準備を整えた。そのなかには、本研究で得た魚鱗図冊や明初「小黄冊図の法」に関する知識も盛り込まれている。

総じて、COVID-19感染拡大の影響によって所期の目標に達することができなかったものの、現地調査が可能となれば所期の目標に達する条件を整えるとともに、明代の里甲制、宋代以降の郷村行政組織に関する新資料の知見を獲得し、休寧県27都5図の農村社会研究の成果を学術書として出版する準備を整えたことは、国内外で大きな意義をもつと考える。

なお、本研究の成果は、COVID-19の感染拡大で中国に渡航できない状況にあっても、リモート開催の国際学会で発表し、中国の研究者と学術交流を行なった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 5
2. 論文標題 朱学源戸之属性考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 徽州文書与中国史研究	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 7
2. 論文標題 江南鄉村社会の原型	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩波講座世界歴史	6. 最初と最後の頁 133-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 3
2. 論文標題 土地売買の頻度と土地所有の変更 以万曆年間徽州休寧県二十七都五図所属人戸為例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 徽州文書与中国史研究	6. 最初と最後の頁 82-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 4
2. 論文標題 給宋代鄉村社会論注入新活力	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 徽州文書与中国史研究	6. 最初と最後の頁 86-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 14
2. 論文標題 明末休寧県27都5図所属の有力氏族	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 唐宋変革研究通讯	6. 最初と最後の頁 61-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 2
2. 論文標題 地主と佃戸関係実態探究 以万曆九年休寧県二十七都五図の租佃関係為綫索	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『徽州文書与中国史研究』	6. 最初と最後の頁 27-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 1
2. 論文標題 従《丈量保簿》与《歸戸親供冊》看万曆年間徽州府休寧県27都5図之事産所有状況	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 徽州文書与中国史研究	6. 最初と最後の頁 76-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 837
2. 論文標題 宋代郷村社会論の再生のために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 5
2. 論文標題 朱学源戸之属性考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 徽州文書与中国史研究	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正彦	4. 巻 19
2. 論文標題 明末休寧県二十七都五図所属有力宗族	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 徽学	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 伊藤正彦
2. 発表標題 明末休寧県二十七都五図所属有力宗族
3. 学会等名 第7回“徽州文書与中国史研究” 學術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤正彦
2. 発表標題 江南鄉村社会的原型
3. 学会等名 第6回“徽州文書与中国史研究” 學術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤正彦
2. 発表標題 宋-明時期的江南鄉村社会
3. 学会等名 “徽州歷史地理与区域社会研究”學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤正彦
2. 発表標題 朱学源戶之属性考
3. 学会等名 第5回「徽州文書与中国史研究」學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤正彦
2. 発表標題 給宋代鄉村社会論注入新的活力
3. 学会等名 第4回「徽州文書与中国史研究」學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤正彦
2. 発表標題 休寧県27都5図所属人戶娶妻的地域範圍
3. 学会等名 第3回「徽州文書与中国史研究」學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森 正夫 (MORI MASAO)	名古屋大学・名誉教授	
研究協力者	樂 成顕 (LUAN CHENGXIAN)	中国社会科学院・古代史研究所・研究員	
研究協力者	黄 忠金 (HUANG ZHONGJIN)	暨南大学・文学院・副教授	
連携研究者	大田 由紀夫 (OHTA YUKIO) (20295231)	鹿児島大学・法文学部・教授  (17701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------